

会 派 合 同 視 察 報 告

市民クラブ

中牧 盛登

小澤 悟

峻嶺会

一本木秀章

傳刀 健

期間：令和6年7月16日（火）から17日（水）まで（2日間）

査察地及び視察事項

（1）神奈川県大磯町

- ・大磯式部活動について
- ・女性議員比率増加による議会の変化について



（2）神奈川県開成町

- ・議会広報改革
- ・一般質問20秒動画について



（3）山梨県北杜市

- ・水の山プロジェクトについて



(1) 神奈川県大磯町

- ・大磯式部活動について
- ・女性議員比率増加による議会の変化について

日時：7月16日（火）10時00分から12時00分



大磯ロングビーチ

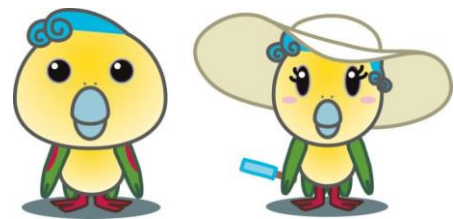
○大磯町の概要

市制施行：昭和29年12月15日

人口：30,952人（令和6年4月1日現在）

12,960世帯

面積：17.18km²



大磯町キャラクター いそべえ・あおみ

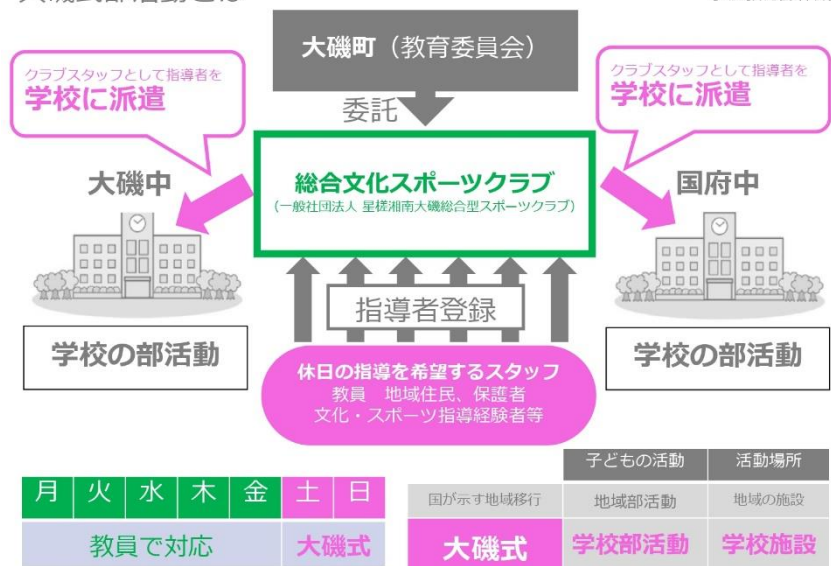
○大磯式部活動

【中学校部活動の課題】

- ・日本中で少子化が進展する中、学校部活動を今までと同様の体制で運用することは難しくなっている。そこで、国は部活動を学校単位から地域単位の取り組みとする方向を示し、令和5年度以降、休日の部活動から段階的に地域以降を図っていくことになった。一方で、国の方針どおりに単純に進め、部活動をなくすことになれば、部活動に所属している大部分の生徒が気軽に文化・スポーツ活動に親しむ環境が失われてしまう可能性が考えられる。

大磯式部活動とは

学校教育課作成



【大磯町の動き】

- ・こうしたなか、国と地域の考えも踏まえ、町ならではの部活動のあり方を検討した結果、地域以降ありきではなく、学校での部活動という枠組みはできる限り残したうえで、今までも部活動以外の場において、町の子どもたちに関わっていただいている大人の皆さんをはじめとした、種目指導に優れた地域の指導者を部活指導員として登用し、町の子供たちが安心して部活動に参加できる、大磯式の部活動の仕組みを整えることとした。

【こどもの気持ち】

- ・ いつも見てくれている先生に教わりたい・専門知識のある人にみてもらいたい・なじみの仲間との学校単位の部活がいい・もっと活動したい

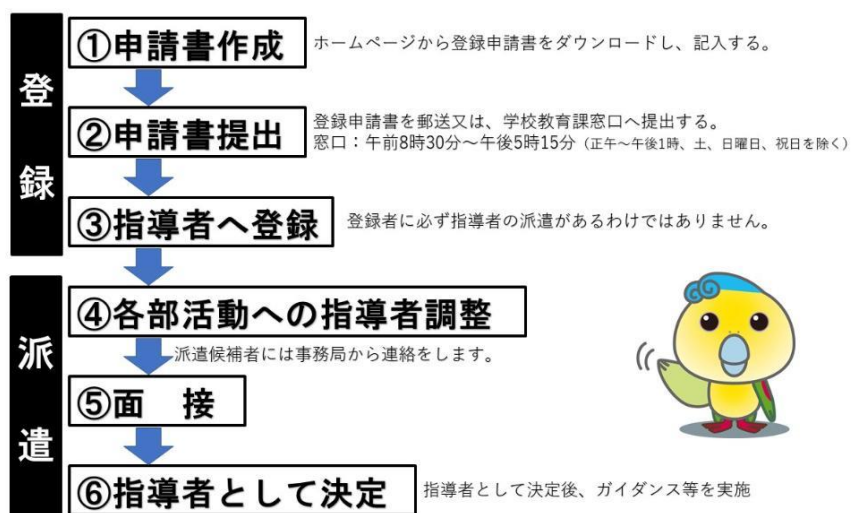
【明らかになった町としての実態】

- ・ こどもは熱意のある指導者に教わりたい気持ちがある・先生も学校部活動を大切にする 必要性を感じている・学校部活動の指導を希望する教員は49%である。

※R6教員アンケートより

【期待できる効果】

- ① 「学校部活動」という子どもにとって慣れた環境での既存システムを活用
安心・安全の担保 指導上起こりうるトラブルやケガ等を回避
- ② 学校施設を活用→会場費を抑え、家庭の費用負担を軽減
- ③ スポーツクラブを活用した公募・登録制→有能な指導者の発掘を断続的に行える
- ④ 指導を希望する熱意ある教員の力を活用できる
※兼職兼業システムの整備 ※希望する教員を優先配置
- ⑤ 教員以外の指導者でも部活の運営が可能となる
※希望する教員でまかなえない部は地域の指導者で補填
- ⑥ スポーツクラブを通した指導者派遣で、より専門的な指導を受けられる



○所感

(中牧盛登)

- ・ 大磯町は、部活動改革の方向性を決めるにあたり、子どもたちの気持ちや教員の考え方、関係する地域の人たちの考え等、2年間かけて検討してきている。

- ・その結果として、大磯式部活動はこれまでの学校活動の枠組みを最大限活用していくとした。子どもたちは、今までと同じ学校内の活動のままである。
- ・市民への周知についても、大磯式部活動スタートとして広報とチラシを回覧するなどきめ細やかな対応ができています。
- ・当市は、十分な検討がされずに準クラブ化として、スタートしたが、子どもたちの将来のためには、これからしっかりとした検討準備を重ね大町らしさが見える部活動改革を進めていただきたい。
- ・大磯式部活動の取り組みは多いに参考にすべきと考える。



(小澤悟)

- ・「部活動の地域移行」は全国的な問題で当市も地域移行はうまく進んでいないと感じ、少しでも今活動している、子どもたち、親御さん、先生(指導者)の不安を取り除く必要があるため、大磯式部活動の視察を行った。
- ・大磯式部活動を視察して一番感じた所は、子供たちに対する想い、部活動が子供たちの成長にとってどれだけ重要か、形だけではなく中身も現在進行形で進んでいるのが大磯町で、中身もなく進めてしまったように、見えるのが大町市でその差を感じた。
- ・一番は今いる子供たちが部活動をどうしたいか、大磯町は子どもたちにアンケート通し、不安要素を取り除き今までと変わらず活動できるよう取り組んでいるように感じた。
- ・地域住民には今後大磯町の部活動の進め方をしっかりと説明している。大磯式部活動の取り組みは全国中学部活動のモデルになり、ぜひ大町市も参考にしていきたい。

(一本木秀章)

- ・大磯式部活動はスポーツ活動だけでなく、文化活動など多岐による活動が行われている。
- ・地域住民が主体となって部活動を企画して、運営をしていた。学校と地域の絆が深まり、効率的な部活動が実践されている。
- ・大磯式部活動は町教育委員会の「わくわくプラン」に基づいて活動ができています。
- ・総合文化スポーツクラブを中心に保護者や地域住民の協力で素晴らしい部活動が行われている。これから大町市の部活動の地域移行にぜひ参考にしていきたい。

(傳刀健)

- ・「部活動の地域移行」は少子化や教員の減少する中、子どもたちのスポーツ、文化芸術に携わる機会を維持するための要請であり、全国の中学校で課題となっているが、大町市でも当然、喫緊の課題である。
- ・大磯町には2つの町立中学校があるが、子どもたちや教職員、地域の声を早い段階で聞きとり、学校単位の部活動を無理に変えるではなく、実情に応じた地域クラブへの移行を目指し、そのための課題の整理ができていた。特に星槎大学の協力の基に「総合文化スポーツクラブ」が立

ち上げられており、運営主体として機能しており、地域移行に向け、どこをどのように強化していくべきか、将来に向けた舵取りができています。

- ・大町市では、教育委員会と学校、保護者、各部活動とそれぞれの足並みが全くそろっていない。推進するための頭脳と、運営する手足を早期に立ち上げ、大町市らしい地域クラブの構築を目指す必要を強く感じた。

○大磯町 女性議員比率増加による議会の変化について

【歴史】 大磯町議会の特徴 議員定数14名(男性7名・女性7名)

バブル期 町民による開発運動が頻発
大磯の自然・環境、歴史・文化を守りたい
と女性が積極的に参画し次々と女性議員
が誕生した

**男性・女性議員が同数
議員定数14名（男性7名・女性7名）**



【変化】 自由に意見が言い合える議会の
誕生

- ・「男性・女性だから」・「一期生議員、ベテラン議員だから」という意識は薄い
- ・互いに臆することなく、言いたいことが言える雰囲気
※新人議員の目立つ言動に対して・・・

○所感

(小澤悟)

- ・議会の女性比率が平成15年以降ほぼ半数を超えていることが、当市に比べても、全国的にも珍しい。議会の特徴として「男性だから・女性だから」という意識が無いという事・大磯町の風土に感銘を受けた。

(一本気秀章)

- ・女性議員比率が50%を達成している。女性議員の増加により、女性ならではの視点やニーズが議会に取り入れられ、子育て支援や福祉サービス、働き方改革や女性や家庭に関する政策が充実している。

(傳刀健)

- ・平成15年以降女性議員の比率が半数以上を維持していることに驚く。特に女性議員を維持するための取組があったわけではなく、大磯町全体に延々と受け継がれている自由闊達な風土が議会にも影響を与えているのだと感じた。男女の壁や議員歴の壁がなく、全ての意見を尊重しあう点においても感銘を受けた。

- ・大町市でも自由闊達な意見の中にこそ、新しい発想と発展のカギがある。議会だけでなく全ての場面において、互いの意見を尊重することの大切さを改めて感じる視察であった。

（２）神奈川県開成町

・議会広報改革・一般質問 20 秒動画について

日時：7 月 15 日（火）14 時 00 分から 16 時 00 分

○開成町の概要

市政施行：昭和 30 年

人 口：18,797 人（令和 6 年 4 月 1 日現在）

7,404 世帯

面 積：6.55 k m²



図開成駅前第 2 公園に保存されている 3100 形 NSE 車

【位置と自然的条件】

開成町は、神奈川県西部の足柄上地区中央部に位置し、東京から 70 km 圏内、横浜からも 50 km の距離にあり、町域は東西 1.7 km、南北 3.8 km、総面積 6.55 km²と県内で一番小さな町である。また、本町の東には酒匂川が流れ、西には箱根外輪山、南には相模湾、北には丹沢山塊を望むなど、自然に恵まれたなだらかな平坦地である。交通網としては、本町から東名高速道路大井松田インターチェンジまで主要地方道御殿場大井線 が連絡し、町外との東西交通の幹線道路として重要な役割を担っている。



【開成町議会改革の取り組み】

改革①通年会期制

開成町議会では、平成 26 年 12 月会議において、「開成町議会の会期等に関する条例」を策定し、1 年間を会期とする「通年会期性」に移行した。

改革② 日曜議会

【実施の経緯】

傍聴者が減少傾向にあったこと及び平成 17 年度前後に、「夜間議会」や「日曜議会」が先進的な取り組みとして全国で始まったことで、開成町議会でも実施することとなった。

【開催時期】

町政施行 50 周年を記念し、平成 17 年度から開催

第 1 回は、12 月に開催し、第 2 回から町の重要イベントである 6 月に開催している「あじさいまつり」の開催にあわせ毎年実施。」

令和４年６月定例会で初の無料託児サービスを実施。

令和2年12月から、議員1人1台のタブレット端末を配布し会議資料のデジタル化(ペーパーレス化)を図った。令和5年1月～12月→紙136,401枚削減

INDEX

議会の取組

議会改革の主な取り組み

議会のうごき

議員派遣報告

議会改革の主な取り組み

当町議会は、「町民に開かれた議会」の実現のため、町議会の活性化に取り組んでいます。その主な取組を紹介いたします。

令和5年7月	・ 議場で幼少中学校の授業等を開始
令和5年6月	・ 日曜議会を開催（90人の傍聴者。無料託児サービス実施）
令和5年4月	・ 夏休み期間中、議場を自習室として一般開放
令和5年2月	・ 全国町村議会特別表彰を受賞
令和4年9月	・ 議会ウェブサイト開設（県内町村初の議会独自ウェブサイト）
令和4年6月	・ 6月定例会議一般質問の概要を1人20秒で説明する動画を作成・配信 ・ 日曜議会（6月19日）を開催（議会初の無料託児サービスを実施）

ご意見・お問い合わせ

>

交通案内

>

令和３年６月から、議会映像のライブ配信と録画配信がスタート

改革⑤ 議会報告会

町内全 14 地区で「議会報告・意見交換会」を開催

- (1) 議会報告会～書く常任委員会の活動報告等～
(2) 意見交換会～地域の現状や課題等について～

期間：令和 6 年 7 月 22 日から 8 月 23 日まで
(土日祝日を除く)

午前 9 時 00 分から午後 5 時 00 分まで

場所：開成町役場 3 階 議場

対象：中学生以上(町内外問わない。大人も利用可。)

座席：20席(先着順)

※令和５年度利用実績：２６日間で延べ１５６名利用、
Free Wi-Fi 有

改革⑦ 開成町議会広報改革について

時勢にあった改革を大胆に推進！
～「読む」から「見る＝魅せる」改革～
議会ウェブサイト令和4年9月に開設
広報紙とウェブサイトの両輪で広報改革を進める
「一人でも多くの町民に、まずは手に取ってもらいたい」



「一ページめくってもらいたい」という信念を持ち、毎号デザインや構成に変化つけて発行

なぜ「今」、「読む」から「見る」なのか

1 情報を迅速に発信する必要性

新聞は前日の記事が掲載されるが、情報はSNSで即時受け取る時代⇒議会活動の発信も迅速化が必要。約2か月後の広報に掲載するのでは遅い。

2 情報をわかりやすく発信する必要性

ホームページに(PDF等)貼り付けて終了していたが、町民に読ませることで満足せず、**動画を取り入れて議会から話しかけ、呼びかける「みていただく」ことが必要**

議会独自のWEBサイト開設



ただし、すべてをデジタル化すべきではないため、紙面での発信も継続していきます。

3 取組みを進める上で

- 1 広報が、議会活動が「議員」ではなく「議会」活動として、町民目線での発信となっているか。
- 2 幅広い世代に議会に関心を寄せていただく取組みとなっているか。

3「今」の取組みが時勢に合わない場合は、見直す勇気も必要。

広報改革を進める体制

【課題】

- ① 広報分科会と広聴分科会の連携が必要
- ② 動画編集や広報デザインの知識が不足
- ③ 新たな取組みのため、事例が少なくノウハウがない。
- ④ 一過性の取組みではなく、将来的に継続した取り組みとしていくことが必要。

4 取組みの成果

- ・議会だよりについて賛否が届くようになった
- ・Y o u T u b e の再生回数がリアルな反応として実感がもてるようになった
- ・身近な議会となるために議員自らが動くことで「動き」を通じて発信することが浸透し、開かれた議会の実現につながっている

改革の成果として

令和3年度から令和5年度まで、**全国町村議会表彰を3年連続受賞** 令和4年度は、**町村議会特別表彰**を受賞

第18回マニフェスト大賞 議会改革賞受賞

「2年間の日本一たきに渡る議会取組み」

「議会広報の改革について」



○所感

(中牧盛登)

- ・開成町議会の広報改革は、議会だよりとウェブサイトの両輪で進めている。まさに「読む」から「魅せる」の改革を実践している。
- ・当市も同様なことをできないわけがない。
- ・当市議会ICT化の取組みにあわせて、なんとしても実現しなければならない議会改革のひとつである。

(小澤悟)

- ・議会広報(議会だより)は委員が中心となって議会報を制作している。ただ、その制作のプロセスは町村議会と市議会とでは大きく異なる中、読者に伝える・伝わる議会報にする必要があるため今の時代にあった広報にする必要があると考え視察を行った。

- ・議会が市民目線で皆さんが現状では満足しておらず常に進化していきたいという想いが強く伝わってきた。
- ・職員の方の、「読ませるより とりあえず見ていただく、という、興味を持たせるための工夫を感じた。
- ・大町市議会もどれだけ市民の読者に、読み・見てもらっているかを一度調べ、現状で満足せずペーパーレス化も含めしっかりと検討していくべきだ。
- ・20秒動画については、すごい！の一言で、すぐにまねができるかといえば難しいのかもしれない。しかし、この開成町の事務局・議会の町民の方々への向き合い方は、当市でも参考にできることがあると感じた。



(一本木秀章)

- ・開成町は通年議会を開催して、町民の議会参加を進めている。
- ・議会広報改革はウェブサイトや SNS を活用して、リアルタイムで議会の情報を提供すると共に議会の中継や録画配信を行い、市民参加の促進をしていた。
- ・デジタル化を促進したことにより、議会だよりをタブロイド判に変更して見やすい、わかりやすい「議会だより」にして、読むから見る議会だよりに変えている。
- ・議会の ICT 化をいち早く推進したことにより、議会改革が進んでいると感じた。
大町市議会もこれから、タブレットを導入しますが、開成町を参考にして、ICT 化を進め議会変革を推進していきたい。



(傳刀健)

- ・議会がチームとしてまとまっていることを強く感じた。そのため、町民の議会に対する関心も非常に高い。日曜議会の開催にあたっては傍聴にあふれる町民がホールで配信動画を見るとき。
- ・広報（議会だより）は住民が議会へ関心を抱く一番身近なツールである。冊子の広報からタブロイド判の広報、「読む」から「見る」へ切り替えビジュアルで住民の関心を引き付けることに成功している。そして広報委員会を常任委員会化していることで、常に新しい発想で広報が発行されていることに工夫と、「チーム議会」の強さを感じた。



・20秒動画についても、各々の議員の工夫がみられ、住民の代表機関として町政に取り組む姿勢が身近に感じられ非常に有効である。

こうした取り組みの舵取りを一人の事務局員が中心となって行ったこと、その改革を支持し、皆で改革に取り組んできた開成町議会の一人一人に尊敬の念に堪えない思いである。

(3) 山梨県北杜市

日時：7月16日（水）10時00分から12時00分

○北杜市の概要

市政施行：平成16年11月1日

人口：45,410人（令和6年4月1日現在）
22,123世帯

面積：60,248 km²



北杜市市章

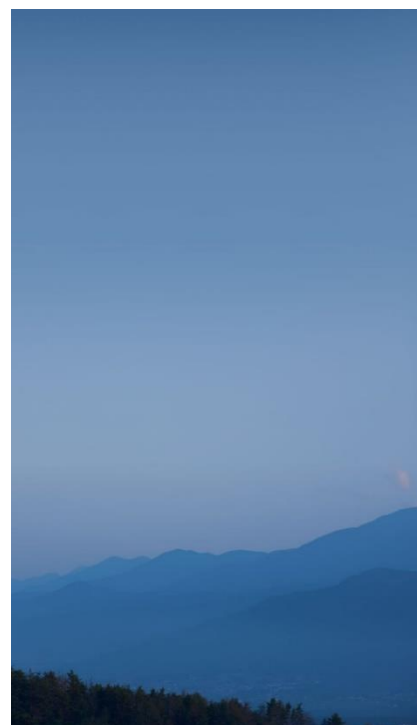
北杜市の国立、国定公園

- 1) 国立公園 ・南アルプス国立公園 ・秩父多摩甲斐国立公園
- 2) 国定公園 ・八ヶ岳中信高原国定高原

水の山プロジェクトについて

「水の山」プロジェクトとは

南アルプスユネスコエコパーク登録を機に、名水の里日本一の北杜市と水資源の保全活動を積極的に行う企業が、互いに手を結び南アルプス地域を起点に世界に誇る「水の山」としてその価値を世界に広め、市民の皆様と共に北杜市全域の地域活性化を目指していくブランド推進プロジェクトです。



水の山ユースアイデアプロジェクト

北杜市内で水資源の保全活動を積極的に行う「水の山」パートナー企業7社と、北杜市内にある3つの高校（山梨県立北杜高等学校、学校法人帝京大学帝京第三高等学校、北杜市立甲陵高等学校）が連携して行う取り組みです。



市内で学ぶ高校生に、地域の特徴である水や自然環境について知る機会や地域の未来を考える機会を提供し、シビックプライドの醸成と持続可能な地域づくりの必要性の浸透をはかるとともに、それを通して、「水と暮らすサステナブルなまち 北杜市」のブランド価値の構築を目指します。

なぜ「水の山」なのか

～世界的にも珍しく貴重な地形と地層が豊かな水を育む～

“日本の屋根”として数えられる南アルプス。この地帯は、ユーラシアプレートの下に東から北米プレートが衝突して沈み込み、さらにフィリピン海プレートが南から衝突し、急速な隆起が起こることで3,000m級の山々が形成された、3つのプレートが交錯する、地球のダイナミズムが感じられる稀有な地です。

また、北杜市は花崗岩を始め多様な地質と地層からなり、70を超す湧水や滝が分布し、太古の縄文時代から人間が巧みに利用してきた八ヶ岳エリア、日照時間日本一の広大で肥沃な農耕地帯である茅ヶ岳・瑞牆山エリアも広がります。

ユネスコエコパーク

ユネスコエコパークとは、Biosphere Reserve（生物圏保存地域）の通称であり、人と自然の共存活動に率先して取り組んでいる地域として、ユネスコに認定されたエリアです。国内には10地域が登録（2023年1月1日時点）されており、そのうち北杜市には、南アルプスと甲武信の2地域が登録されています。ひとつの自治体に2つの登録地があるのは世界で北杜市だけです。



南アルプスユネスコエコパーク

2014年6月12日に南アルプスユネスコエコパークに登録されました。

北杜市では、甲斐駒ヶ岳等の山々、尾白川等の清流、武川産米等の農産物に代表される資源を活用した魅力あるまちづくりにより、自然や文化を次世代へとつなげるため活動に取り組んでいます。



南アルプス
ユネスコエコパーク

甲武信ユネスコエコパーク

2019年6月19日に甲武信ユネスコエコパークに登録されました。



北杜市では、歴史と文化薫る金峰山や瑞牆山、茅ヶ岳などの名山、日照時間の長さや肥沃な土壌で生産される果樹等を活かしながら、源流域として人々の暮らしにつながるまちづくりに取り組んでいます。

マスコットキャラクター

2世界に誇る「水の山」を象徴するキャラクター「ミズクマ」を開発。森林生態系を代表し、森と人が共生するシンボルであり、市内にも生息する「クマ」と「名水」をあわせ、「ミズクマ」と呼びます。ポスターやのぼり、市職員の名刺など市内を中心にあらゆる場所で掲出し、積極的に活動をアピールします。



○所感

(中牧盛登)

- ・北杜市は、市民が水の価値に気づいていない課題があるとして、中高生向けの教育を行っている。
- ・市内3高校が学校の枠を超えて、サポーター企業が相互に学校と企業を行き来し、水と暮らすサステナブルな街の共感を生むための体験学習会や講演会、企業視察を実施するなど取り組んでいる。
- ・当市としても、北杜市の取り組みを参考に、中高生を対象に水資源や水の活用などについて学びを深めていく工夫を考え実践してはいかかと思う視察であった。

(小澤悟)

- ・北杜市内で水資源の保全活動をパートナー企業7社と、北杜市内にある3つの高校が連携して行うという部分が、当市の「みずのわプロジェクト」との大きな違いを感じた。
- ・北杜市は市民に「水の山プロジェクト」の認知度が低いという課題をしっかりと認識し、その認知度の低さを上げる取組みとし水資源の大切さを中学校教育に取り組んでいる。実感として当市も似たような課題があると感じた中、北杜市は市民アンケートの実施を行い、課題解決に向けて取り組んでいる点を当市にも参考にさせていただきたい。

(一本気秀章)

- ・北杜市は自然と人間社会の共生を目的とするユネスコエコパークに認定されている。そこで、世界に誇る「水の山プロジェクト」を推進している。これは地域活性化を目指していくブランド推進プロジェクトである。
- ・このプロジェクトは 北杜市の豊かな自然環境と水資源を守りつつ、地域の持続可能な発展を目指す取組みである。このプロジェクトを通じて、北杜市は美しい自然と豊かな水の恩恵を次世代に引き継ぐことを目指している。
- ・大町市でも、もっとブランド推進をしないといけないと感じる。北杜市のサポーター企業は35社に及び、名水にこだわる製品の開発や販売をしている。当市でもぜひ参考にさせていただきたい。

(傳刀健)

- ・大町市で行っている「みずのわプロジェクト」と非常に類似した事業であり、2015年から取り組んでいる事業である。大町市のみずのわプロジェクトよりも6年ほど前から取り組んでいる。北杜市では、水がシビックプライドになりえているのか、対外的に認知されているのか、いかにして水でまちづくりを展開するのか伺ってきた。
- ・古くから水のまちとして全国的にも広く深く認知されている北杜市であっても、シビックプライドにつなげることや、認知度向上につなげるための課題は多いようである。プロジェクトの主導は観光課が主体のようであるが、観光客増への課題もあるようである。



しかし、地元高校生のプロジェクトへの参画や、地元企業の携わり方には大町市のプロジェクトに比べ活気があるように思えた。

大町市では、このプロジェクトのビジョンが非常にわかりにくいため、産学官金連携プロジェクトとして発足しているが、地元高校生や企業の携わり方に物足りなさを感じる。さらにビジョンを明確にしたうえで、多くの団体企業が携われる仕組みを拡大してほしい。